

もも栽培情報 第4号

令和 7 年 5 月 22 日
J A ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

1 概況

着果状況は、園地・品種によってばらつきがありますが、おおむね良好となっています。
今後は、品質の高い果実生産のため、早期の仕上げ摘果・袋かけの実施、来年の枝育成や結果枝の受光体勢を良くするための新梢管理（捻枝等）を行ってください。

2 病虫害防除

せん孔細菌病の重要防除時期です。散布間隔が空きすぎないように、また、散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。

前年、カメムシ類の発生が多かったことから、越冬虫数も多かったと考えられ、本年も多発が懸念されます。園地の観察をこまめに行い、カメムシ類の発生が確認された場合、カメムシ類の発生が確認された場合、下表を参照に防除を実施してください。

結実樹

(散布量：400L／10a)

回	時 期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剤量
8	6 月上旬	せん孔細菌病、黒星病 カイガラムシ類幼虫 (展着剤)	トレノックスフロアブル アブロード水和剤 マイリノー	500倍 1,000倍 20,000倍	200 mL 100 g 5 mL
9	6 月中旬 (袋かけ後)	せん孔細菌病 モモハモグリガ、カメムシ類、シンクイムシ類 (展着剤の加用は必要ありません)	ICボルドー412(※1) スタークル顆粒水溶剤(※2)	50倍 2,000倍	2 L 50 g
10	6 月下旬	せん孔細菌病、灰星病 シンクイムシ類、モモハモグリガ (展着剤)	デランフロアブル デミリン水和剤 マイリノー	600倍 3,000倍 20,000倍	166 mL 33 g 5 mL

※1：・ICボルドー412 は、必ず袋かけ後に散布する。なお、袋かけが遅れて防除間隔が開きすぎる場合は、9回目と10回目の防除順番を入れ替える。

・降雨が予想される場合は、薬害のおそれがあるため散布を控える。

※2：コンフューザーMMを設置している場合、スタークル顆粒水溶剤の散布は省略できるが、カメムシ類の発生が確認された場合は、散布する。

未結実樹

(散布量：5L 以上／樹)

回	時 期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剤量
6	6 月上旬	せん孔細菌病、黒星病 カイガラムシ類幼虫 (展着剤)	トレノックスフロアブル アブロード水和剤 マイリノー	500倍 1,000倍 20,000倍	200 mL 100 g 5 mL
7	6 月 中下旬	せん孔細菌病 カイガラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類 (展着剤)	デランフロアブル ダイアジノン水和剤34 マイリノー	600倍 1,000倍 20,000倍	166 mL 100 g 5 mL

農薬散布の際は、濃度や対象病虫害など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

3 新梢・徒長枝管理

- ・主枝や亜主枝、側枝等を育成するため、強い新梢は切除・捻枝を行ってください。切除は、硬核期間中（満開 55 日後頃～75 日後頃）に実施すると生理落果を助長するので、6 月初旬頃までに実施し、捻枝は、新梢に柔軟性がある 5 月下旬～6 月下旬に行ってください。
- ・なお、主枝の背面から発生した徒長枝は、基部から 3～4 節残して摘心（先端を切除）することにより、主枝背面の日焼け防止につながります。

4 仕上げ摘果

- ・仕上げ摘果は、満開 40 日後頃から始め、硬核期に入る前の満開 55 日後頃（6 月初旬頃）までに実施してください。硬核期に入ってから摘果は、核割れの発生を助長し生理落果の原因となります。
- ・双胚果（写真 1）、変形果（写真 2）、病虫害被害果、小玉果を摘果してください。ただし、生理落果が多い品種はやや多めに着果させてください。



写真1 双胚果



写真2 変形果

- ・着果量は、下表を目安に結果枝の種類（長さ）に応じて調整してください。

（表）着果量の目安

結果枝の種類（長さ）	結果枝本数当たりの着果数（仕上げ摘果後）
長大な長果枝（50～80cm）	1本に4～5果
長果枝（30～50cm）	1本に2～3果
中果枝（10～30cm）	1～2本に1果
短果枝（10cm 未満）	3～4本に1果
花束状短果枝（2～3cm）	8～10 本に1果

5 袋かけ

- ・灰星病やせん孔細菌病の果実感染防止のため、仕上げ摘果終了後、すみやかに袋かけを開始し（図）、6 月中旬を目途に終了してください。なお、袋かけ時に小玉果や傷果など、見直しの摘果（補正摘果）も行ってください。

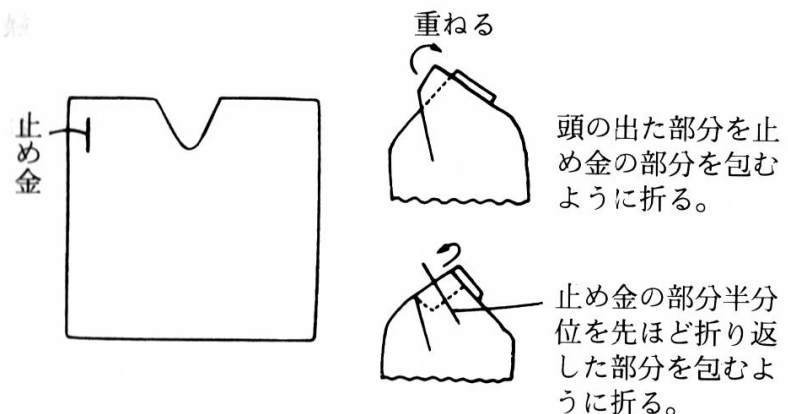


図 袋かけの方法

6 かん水

- ・土壌の過乾燥による初期生育の遅延や、その後の降雨による生理落果の多発等を防止するため、高温・乾燥が続く場合は 5～7 日間隔でかん水を実施してください。

●農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

●脚立での作業や、農業機械等での作業時の安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。